

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	飯伊圏域障害者総合支援センター活動支援事業	会計	一般会計	事業No.	116	施策順No.	34-020
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-3-51-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯伊圏域で暮らす在宅の障害者 2 飯伊圏域の住民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯伊圏域の在宅障害者等概算数(人)		11413	12000	12200	12400	
		飯伊圏域の住民概算数(人)	171771	170000	169540	168000		
意図	障害があっても、住み慣れた場所で、ひとり人の障害児者が自分らしく安心して暮らし続けられるように、センターを利用してもらう							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	センターを利用した飯伊圏域ののべ件数/飯伊圏域の住民概算数(%)	4.2	5.2	5.3	5.5	5.4	5.5	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】	引き続き、障害者相談支援に取り組む飯伊圏域障害者総合支援センターの活動について南信州広域連合を通じ支援を行った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯伊圏域障害者総合支援センターの活動を支援する。 【主な事業】 ・障害児者とその家族のための相談支援事業 ・障害児者の居宅生活を支援する事業 ・障害児者の社会参加を支援する事業 ・障害者就労を支援する事業 ・障害者の理解を深めるための事業 ・センターの活動をPRする事業		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 障害児者等相談支援事業 障害児者及びその家族の相談、生活の支援 2 センター機関誌発行事業 障害者に対する理解を広めるとともに、センターの活動をPRする機関誌等を発行 3 障害者福祉情報発信事業 障害福祉制度や障害福祉に関する情報を発信	1 相談延べ件数 2 機関誌発行部数 3 情報等発信件数	1 9,200件 2 2,000部 3 20件
23年度実施計画	1 障害児者等相談支援事業 障害児者及びその家族の相談、生活の支援 2 センター機関誌発行事業 障害者に対する理解を広めるとともに、センターの活動をPRする機関誌等を発行 3 障害者福祉情報発信事業 障害福祉制度や障害福祉に関する情報を発信	1 相談延べ件数 2 機関誌発行部数 3 情報等発信件数	1 9,200件 2 2,000部 3 20件

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	2,238	2,033	2,674	特定財源内訳、補足事項	(国)地域生活支援事業補助金(1/2)2,033千円 (県)地域生活支援事業補助金(1/4)1,016千円
		県支出金	1,119	1,016	1,337		
		起債					
		その他					
		一般財源	12,120	12,159	12,338		
		計(A)	15,477	15,208	16,349		
		正規職員所要時間		20			
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)		72			
		トータルコスト A+B		15,280			

4 事業に対する市民や議会の意見

市議会より、飯伊圏域障害者総合支援センターのPRを積極的に実施するよう提言あり
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	障害者福祉の充実	施策の成果指標又はムトス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	障害者自立支援法の施行とともにできた組織であるが、障害者のあらゆる相談に対応し、地域で安心して生活するための支援ができた。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止後の障害者総合福祉法の動向を注視しつつ、障害者が地域で安心して生活するための支援を行う。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	飯伊圏域障害者総合支援センターのPRを積極的に実施した。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法の一部改正に伴う相談支援体制の変更を考慮しつつ、PR等を積極的に実施する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業費の主なもの人件費であるが、相談件数が増加している中で現状の人員で効率的に対応している。		
	後期に向けた課題	毎年増加している相談件数の中で対応できる件数には限界があり、障害者の地域での生活を確保していくためにも適正人員を確保していく必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	相談者を受益者と設定する事業ではない。		
	後期に向けた課題	なし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体は飯伊圏域障害者総合支援センターであり、行政にはない専門の見地で事業展開をしている。 ②飯伊圏域障害者総合支援センターのPRを積極的に実施した。		
	後期に向けた課題	飯伊圏域障害者総合支援センターをより多くの市民に知ってもらうためのPRを検討していく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	障害者自立支援法の施行とともにできた組織であるが、障害者のあらゆる相談に対応し、地域で安心して生活するための支援ができた。また独自事業も展開する中で障害者に対する理解も深まってきた。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止後の障害者総合福祉法の動向を注視しつつ、ひきつづき障害者が地域で安心して生活できるよう支援していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------